

CHOFU

ガス給湯器〈屋外壁掛・PS標準設置型〉

工事説明書

型名 GK-1650K・GK-2050K・GK-2450K
GK-1650KO・GK-2050KO

●本書では、人への危害や財産への損害を未然に防止するため、安全に関する重要な内容を次のように分類して記載していますので、必ずお守りください。

	危険	この表示を無視して作業を誤った場合に、作業者またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う危険、または火災の危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
	警告	この表示を無視して作業を誤った場合に、作業者またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
	注意	この表示を無視して作業を誤った場合に、作業者またはその作業後の不具合によって使用者が軽傷を負う可能性、または物的損害の発生が想定される内容を示しています。

●お守りいただく内容を、次の図記号で説明しています。

	禁止 「してはいけない」内容です。		実行 「しなければならない」内容です。
	アースを接続する		電源プラグを抜く

危険

機器の仕様の確認

- この機器は屋外設置型ですので、絶対に屋内や浴室内に設置しないでください。
- 設置後、周囲を波板などで囲んで屋内のような状態にしないでください。火災のおそれや不完全燃焼を起こし一酸化炭素中毒の原因になります。
- 誤ってガス接続口に給水配管を接続した場合は、そのまま配管を接続し直して機器を使用しないでください。ガス漏れ・爆発・火災の原因になります。

処置方法 誤って配管した場合は、ガス回路のすべての部品交換が必要です。

警告

設置工事は専門の資格者が行う

- ガス配管接続工事には専門の資格や技術が必要です。
- 機器の設置や移設および付帯工事はお買い求めの販売店に依頼し、お客様ご自身で設置しないでください。

工事されるかたへ

- 機器を正しく、安全にご使用いただくためにこの「工事説明書」をよくお読みの上、指定された工事を行ってください。
- 機器の設置の際には「**ガス機器の設置基準及び実務指針**」（日本ガス機器検査協会刊）に基づいて行い、火災予防条例・電気設備に関する技術基準・電気工事・水道工事はそれぞれ指定の工事店に依頼するなど法令の基準を守ってください。
- 設置工事終了後、「**設置工事後の点検・確認**」、「**試運転**」の項に基づいて必ず再確認を行ってください。
- 給排気について
 - ・給排気が充分できる場所に設置してください。
 - ・壁などに囲まれた場所への設置は不完全燃焼の原因となります。
 - ・積雪で機器の給気部や排気部がふさがれるおそれがある場合は、給排気に影響がないように防雪の処置を行ってください。

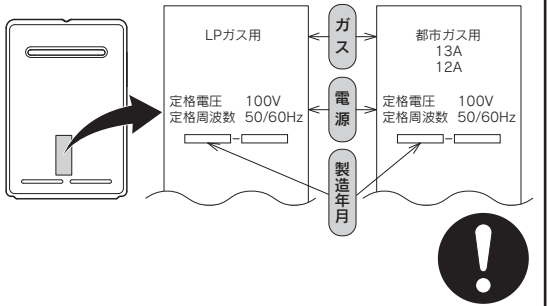
注意

- 作業時は手袋などの保護具を着用してください。けがの原因になります。

設置前のご注意

設置する機器の確認

- この機器は家庭用です。家庭用以外に使用すると保証の対象外になります。
- 機器の銘板に表示してあるガスの種類(ガスグループ)および電源(電圧・周波数)以外では使用しないでください。表示以外のガスで使用すると、不完全燃焼・爆発着火・火災・故障の原因になります。



設置場所の確認

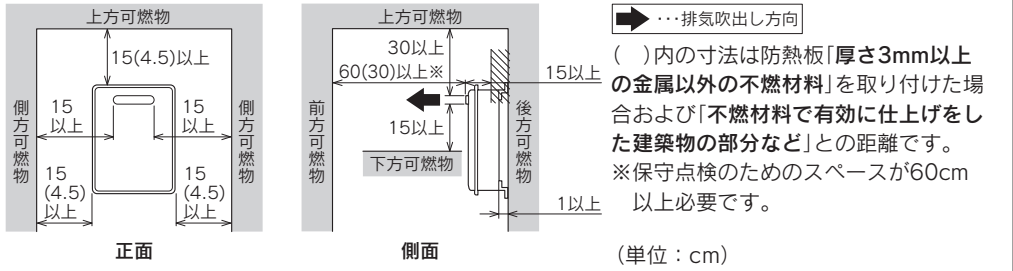
一般的な注意事項

- 設置場所はお客様とよく相談して決めてください。
- 設置場所の選定
 - ・機器の使用頻度が高い場所の近く
 - ・運転音(燃烧音・送風機)が隣家の迷惑にならない場所
 - ・排ガスが自家や隣家に入らない場所
 - ・排ガスで悪影響を受けるものがない場所(ペットや植物など)
 - ・高所の外壁に機器を設置する場合は機器本体正面で作業を行うことができ、かつ2階以上では落下防止の手すりなどの措置のある場所(ベランダなど)
- パイプシャフトに機器を設置する場合は規制がありますので、所轄の消防署、水道局(課)に確認してください。
- 石灰分の多い水質(硬水)地域では、別売のリモコンを取り付けてください。お湯を使った後は取扱説明書に従った操作が必要です。

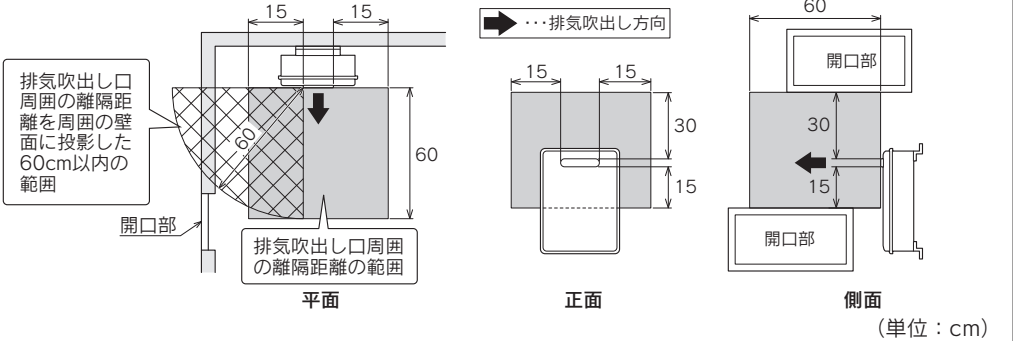
注意

火災予防

- ガソリン・ベンジン・接着剤などの引火性の危険物を扱う場所には設置しないでください。
- 可燃性ガスの漏れるおそれのある場所には設置しないでください。万一ガスが漏れて機器の周囲にたまると、火災の原因になることがあります。
- 機器を設置する場所の周囲の壁や天井などが防火上安全なものであることを確認し、防火上有効な間隔をとることができる場所に設置してください。
- 機器の周囲の可燃物(可燃材料・燃烧材料または準不燃材料による仕上げをした建物の部分も含む)とは、次の離隔距離をとってください。

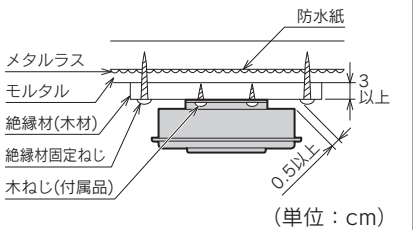
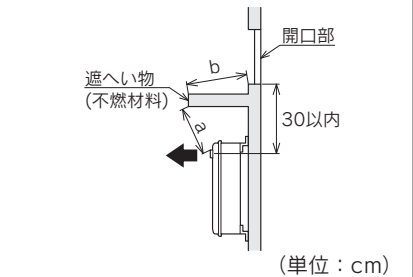


- 排ガスが家の中に入らないように、できるだけ窓などの建物開口部から離れた場所に設置してください。
- 排気吹き出し口から図の寸法を壁面に投影した範囲内に、燃烧排ガスが室内に流入するおそれのある建物開口部がないことが必要です。ただし、排気吹き出し口から60cm以上離れた部分は除きます。



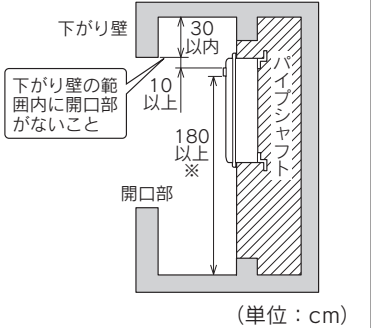
建物開口部とは、建物に設ける窓やドアなどでガス機器の使用時に可動し開口するもの(引き違い窓・すべり出し窓・開きドアなど)および常時開放されている換気口などをいい、明かり取り用に設ける開閉できない窓・片引き窓の固定されている部分・ガス機器使用時は閉鎖されていると考えられる窓・引き違い窓で動かないようになっている部分・逆流防止用のダンパーが装備されている換気口などは開口部とみなしません。

- 排気吹き出し口と建物開口部との離隔距離が30cm以上確保できない場合は、図のように有効な遮へい物を設けてください。上方に有効な遮へい物を設けた場合の離隔距離は図のa+bを60cm以上確保してください。
- 建物の外壁や窓(ガラス・サッシ・網戸など)に排ガスが当たる位置には、機器の設置を避けるか、排気カバーを取り付けて排気の吹出し方向の変更処置を行ってください。燃烧排ガス中の水蒸気の結露による変色・腐食・破損などの原因になります。
- 排ガスによって加熱されると困るもの(植木・ペット・耐熱性が低い樹脂など)の周囲には機器を設置しないでください。植木が枯れたり、ペットなどに悪影響をおよぼす場合があります。
- メタルラス張りやワイヤラス張りなどの壁に取り付ける場合は機器とメタルラスやワイヤラスなどが電氣的に接触しないように設置してください。(電気設備に関する技術基準)
- 地域によっては火災予防条例などで規制されている場合があります。その場合は条例に従って取り付けてください。



パイプシャフト設置

- 解放廊下の開口部が以下の条件を満たす場所に設置してください。詳しくは「**ガス機器の設置基準及び実務指針**」に従って工事を行ってください。●解放廊下の開口部は、原則として機器の排気吹き出し方向を中心に両側に1m以上、高さ1m以上かつ面積2m²以上必要とします。なお、機器の排気口から開口部までの距離は2m以下にしてください。
- パイプシャフトの前面扉などの上部および下部に各々100cm²以上の開口部(換気口)を設けてください。
- 廊下にながり壁がある場合は、ながり壁の寸法が30cm以内であることを確認してください。●排気吹き出し口高さ180cm以上+排気吹き出し口上端からながり壁までの高さ10cm以上が確保できれば、ながり壁寸法は30cmを超えても設置できます。
- 排ガスによって加熱されると困るもの(植木・ペット・耐熱性が低い樹脂など)の周囲には機器を設置しないでください。植木が枯れたり、ペットなどに悪影響をおよぼす場合があります。
- 避難通路となるベランダに機器を設置する場合は、避難通路を60cm以上確保してください。集合住宅の共用片廊下では有効な避難通路を120cm以上確保してください。また排気吹き出し口高さを床面より180cm以上確保してください。



設置壁面

- 機器の重量に充分耐えられる丈夫な壁に設置してください。充分な強度がない場合は補強工事を行ってください。
- 穴あけの際は壁内の配線や配管に注意してください。

⚠ 注意

■設置場所の周辺

- 美容院・クリーニング店・工場など使用する業務用薬品(アンモニア・イオウ・塩素・エチレン化合物・酸類など)を使用する場所または腐食性ガスが発生する場所には設置しないでください。不完全燃焼・火災・故障の原因になります。
- 換気扇・レンジフード・冷暖房機器などからの風が機器に影響を与える場所には設置しないでください。不完全燃焼の原因になります。
- ガスメーター(マイコンメーター)・ガス配管・ガス容器・電気設備の点検に支障のない場所に設置してください。
- 階段や避難口の正面から水平距離5m以内には設置しないでください。パイプシャフト内設置の場合は共用片廊下の集合住宅で、階段室への設置はできません。
- 排水のしにくい場所には設置しないでください。
- できるだけ隣家から離して設置してください。
壁などの反響によって音が大きくなる場合がありますので注意してください。

■保守や点検のためのスペース

- 機器の点検や修理ができるように十分なスペースを確保してください。また前方だけでなく下方にもスペースを設けてください。

■接地(アース)

- アース工事を確実に行ってください。
アースが不完全な場合は、感電するおそれがあります。



お願い

工事されるかたへ

- この工事説明書は工事終了後、取扱説明書と共に必ずお客様にお渡しください。

水道水を使用する

- この機器は水道水用です。地下水・井戸水・温泉水を使用すると、水質によっては故障することがあります。この場合の修理は保証期間内でも有料になります。

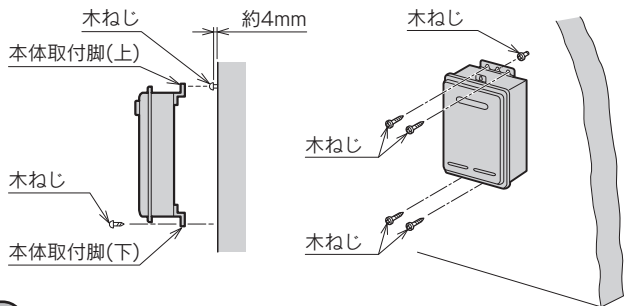
機器の設置

- この機器は「**建築基準法施行令**」に基づき転倒防止などの措置を講ずる必要がありますので、「**工事説明書**」に従って機器を建築物に固定してください。
- 満水時の機器は約15kgの質量がありますので、取り付ける壁に十分な強度があることを確認してください。

外壁設置の場合

- コンクリートやモルタルなどの壁に固定する場合は、フィッシャープラグSX 6×30(現地手配)を使用してください。

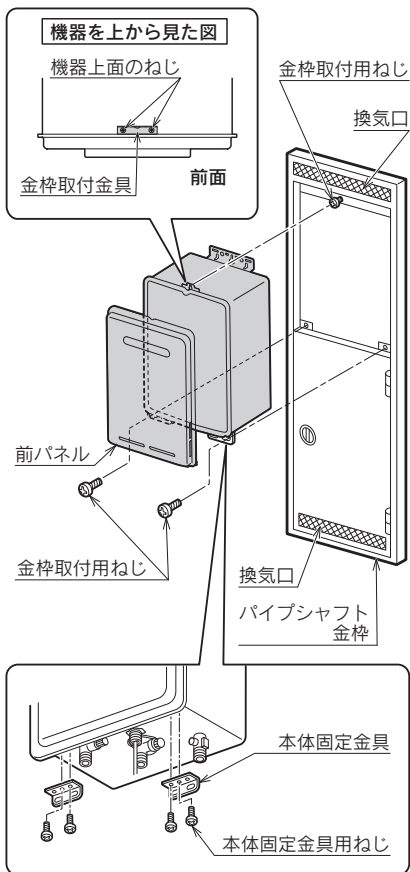
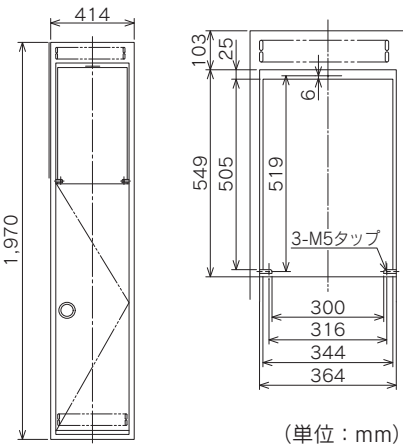
- 1.木ねじ(1本)を引掛け部(約4mm)を残して壁にねじ込みます。
- 2.機器の本体取付脚(上)の中央の穴をねじに引っ掛け、機器を垂直にして本体取付脚(上・下)の各2箇所の長穴に木ねじをねじ込み固定します。



パイプシャフト内設置の場合

- 1.機器の前パネルのねじ(4本)をはずし、前パネルを取りはずします。
- 2.機器上面のねじ(2本)をはずし、別売の金枠取付金具を取り付けます。
- 3.別売の本体固定金具(2個)を機器底面に本体固定金具用ねじ(4本)で固定します。
本体固定金具は内側の穴2箇所を使用してください。
- 4.パイプシャフト金枠上部に金枠取付用ねじ(1本)を引掛け部(約4mm)を残してねじ込みます。
- 5.機器上部の金枠取付金具をねじに引っ掛け、下部の本体固定金具(2箇所)を金枠取付用ねじ(2本)でパイプシャフト金枠に固定します。
- 6.4でねじ込んだ金枠取付用ねじを締め込んで固定します。
- 7.「給水・出湯・排水配管工事」、「電気配線工事」を行います。
- 8.前パネルを1ではずしたねじ(4本)で機器に元通りに取り付けます。

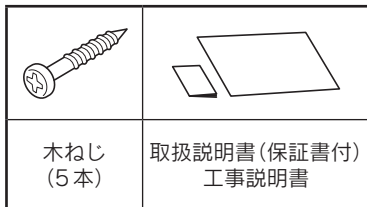
パイプシャフト金枠参考図



- パイプシャフト内設置の扉の上下に有効面積100cm²以上の換気口を設けてください。
- 所轄の消防署、水道局(課)によりパイプシャフトの様式・大きさ・換気口の有無などの規制がありますので注意してください。

付属品の確認

- 梱包されている付属品に不足がないことを確認してください。

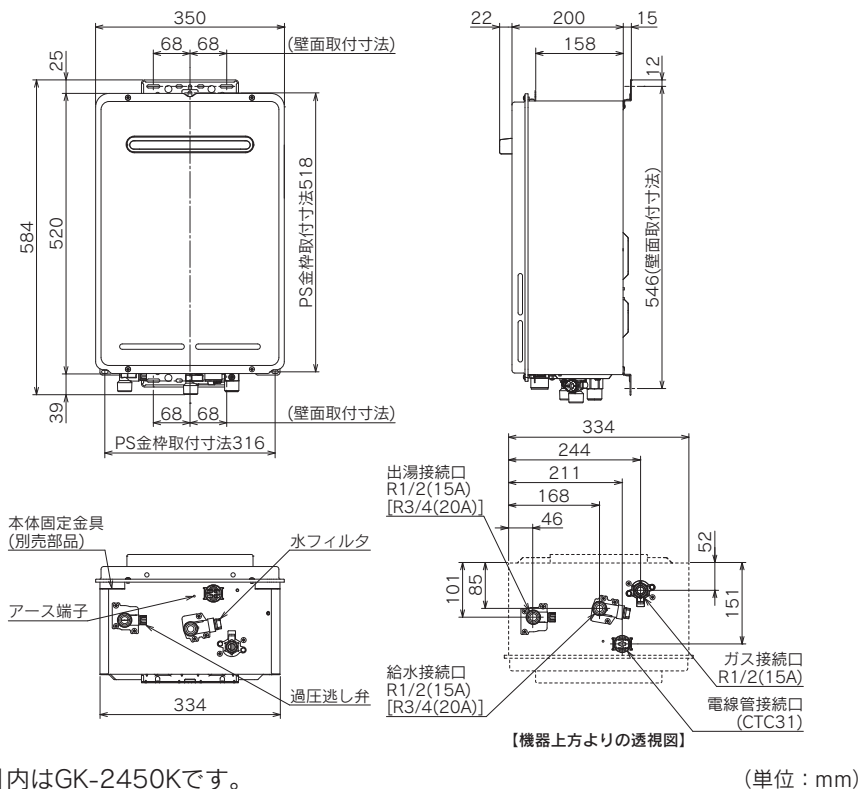


別売部品

- 台所リモコン (CMR-2801 または CMR-3301V※1)
- 増設リモコン (CMR-2801S または CMR-3310SV)
- 防水形増設リモコン (YST-3301V※1 または YST-3303V※2)
- リモコンパイプセット ●配管力バー
- リモコンコード2心 ●排気力バー
- 金枠取付・本体固定金具(ねじ付) ●据置台

※1 GK-2450Kのみ使用します。
※2 GK-2450Kには使用しません。

外形寸法図



給水・出湯・排水配管工事

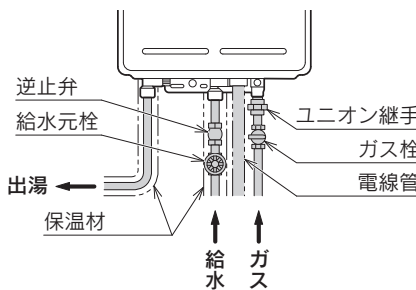
(裏面へ続く)

⚠ 注意

- 配管工事は各市町村水道局(課)の指定工事店に依頼し、規定に従って工事を行ってください。
- 配管はすべて保温してください。(フレキシブルチューブも含む)
- 出湯配管は脱酸銅管またはステンレス管をおすすめします。塩ビ管は使用している間に破裂するおそれがあります。また、銅管は赤錆発生の原因になりますので、使用しないでください。

配管上の注意

- 上水道に直結するときは、水道局(課)の許可が必要です。詳しくは所轄の水道局(課)に確認してください。
- 配管材料やシール材などは各市町村水道局(課)承認のものを使用してください。
- 配管は取りはずしができるような部材を使用して接続してください。
- フレキシブルチューブは各地域の水道条例によって規制されている場合がありますので注意してください。
- 配管を機器の接続口に接続する場合は、必ずスパナなどを接続口にかけて、機器に無理な力がかからないように注意してください。
- 混合水栓はその混合水栓の仕様に従って配管してください。
- 給水配管と出湯配管の接続を間違えないようにしてください。
- 配管途中に空気だまりができないようにしてください。



●給水・出湯配管接続口径

GK-1650K・GK-1650KO GK-2050K・GK-2050KO	R1/2(15A)
GK-2450K	R3/4(20A)

給水配管

- バーナーが点火するためには毎分2.5リットル以上の水量が必要です。
- この機器の最低作動水压は9.8kPa(0.1kgf/cm²)です。
給湯量の確保など、快適に使用するためには給水圧力が約200~500kPa(約2.0~5.0kgf/cm²)が必要です。特に給水圧力が低い場合には、機器の能力が充分発揮されず、お客様とのトラブルの原因になりますので、加圧ポンプを使用して対策を行ってください。
※快適に使用するための目安は、給湯栓を開けたときの給水圧力が1階に給湯する場合は約200kPa(約2.0kgf/cm²)以上、2階に給湯する場合は約250kPa(約2.5kgf/cm²)以上がそれぞれ必要です。
- 機器の給水接続口の近くには必ず逆止弁と給水元栓を取り付けてください。
また、給水接続口と逆止弁の間の配管には塩ビ管は絶対に使用しないでください。
- 機器に接続する前には必ず水を流して配管内のゴミを排出してください。
- GK-2450Kは太陽熱温水器と接続できません。

出湯配管

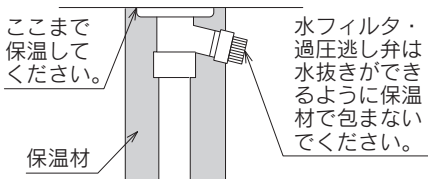
- 機器は使用頻度が高い場所の近くに取り付け、出湯配管はできるだけ短くしてください。
- 水抜きが簡単にできるように配管し、もしできない場合には配管の途中にドレン栓を取り付けて水抜きができるようにしてください。
- 水抜きや空気抜きを容易にするために1/100~1/200程度の先上がり勾配にしてください。
なお鳥居配管は空気だまりができますので絶対にしないでください。
- 階上に配管する場合は余分に給水圧力[1mにつき約10kPa(約0.1kgf/cm²)]が必要です。
- 混合水栓は通水抵抗の少ないもの、またシャワーヘッドは圧力損失の少ないものを使用してください。やけど防止のためサーモスタット付混合水栓の使用をおすすめします。

凍結予防

⚠ 注意

- 市販の電気ヒータを使用する場合は、配管の材質に適応したものを使用してください。適応しないヒータを使用すると、配管が凍結したり発火したりするおそれがあります。

- 配管は必ず保温材(グラスウール厚み25mm以上同等品)で保温し、フレキシブルチューブを使用している場合は、フレキシブルチューブも必ず保温してください。
- 配管の保温は水漏れ確認後に行ってください。
- 給水・出湯接続口の根元まで保温してください。



- 水抜きが容易にできるように、水フィルタ・過圧逃し弁は保温材で包まないでください。 ※水フィルタ・過圧逃し弁はエアチャージ栓を兼ねています。
- 凍結のおそれがある地域では市販の電気ヒータを配管やバルブ類に巻いて、十分な保温を行ってください。保温が充分でないと凍結予防処置を行っても効果がありません。
- 市販の電気ヒータを使用する場合は、配管の材質に適応したものを使用し、ヒータの説明書に従い正しく取り付けてください。
- パイプシャフト内の配管には電気ヒータが巻けませんので、凍結のおそれがある地域では保温材を厚くしてください。
- 保温材の端面は防水処理を行ってください。
- 凍結予防工事を完全に行っても、お客様が凍結予防を実行しないと、凍結することがあります。「取扱説明書」に従い、実際に操作して説明してください。

電気配線工事

⚠ 警告

- 電源コードが取り付けている位置から1.5m以内にコンセントがないときは、電力会社の指定工事店に依頼し、所定の電気配線をしてください。絶対に電源コードを切断して延長しないでください。火災や感電の原因になります。
- 電源コードは束ねたまま使用しないでください。また、余った電源コードやアース線は機器内に入れないでください。火災の原因になります。
- パイプシャフト内設置時に電源ケーブルが熱交換器・バーナーなどの燃焼部・ヒータに接触しないように配線してください。

電源周波数

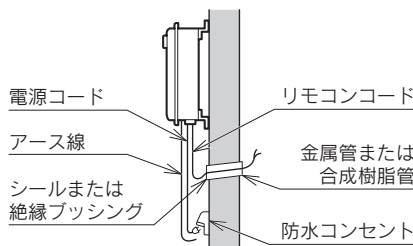
- この機器は50Hz・60Hz共用です。

電気配線

- 電源は必ずAC100Vを使用してください。絶対に200Vに接続しないでください。機器が破損します。
- 電気配線は電力会社の指定工事店に依頼してください。
- 機器を設置する場所に電源コンセントがない場合、あるいはあっても位置や容量が適切でない場合は、新設や移設または交換してください。

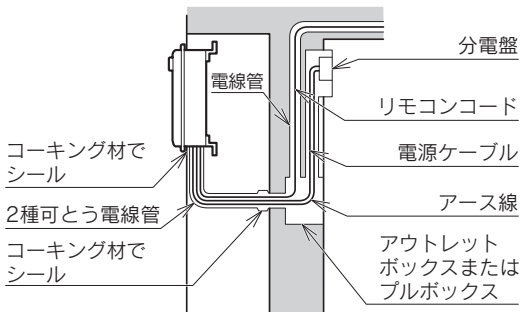
外壁設置の場合

- 防水コンセント(JIS防雨形)を設置してください。
- 防水コンセントは地面から30cm以上の位置に取り付けてください。
- ガス管および水道管とコンセントは10cm以上離してください。
- 防水コンセントにアースが接続できない場合はD種接地工事を行ってください。



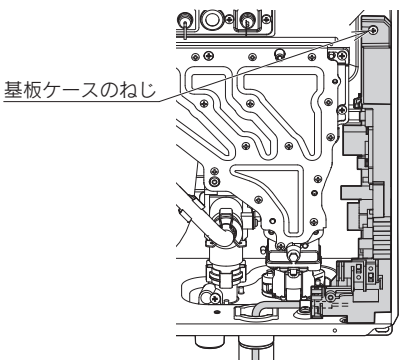
パイプシャフト内設置の場合

- 配線は2種可とう電線管で保護し、パイプシャフト内では電源ケーブルおよびリモコンコードを切断して接続しないでください。
- 電線管がパイプシャフト内壁面を貫通する部分および機器との接続部分はコーキング材でシールし、パイプシャフトの外と気密が保たれるように処置してください。
- パイプシャフト内および内壁面にはスイッチボックスを使用しないでください。ただし、防爆構造のものはこの限りではありません。
- パイプシャフト内の電気配線を行う場合は、電気設備に関する技術基準に従って防爆工事を行ってください。
- 分電盤にアースが接続できない場合はD種接地工事を行ってください。

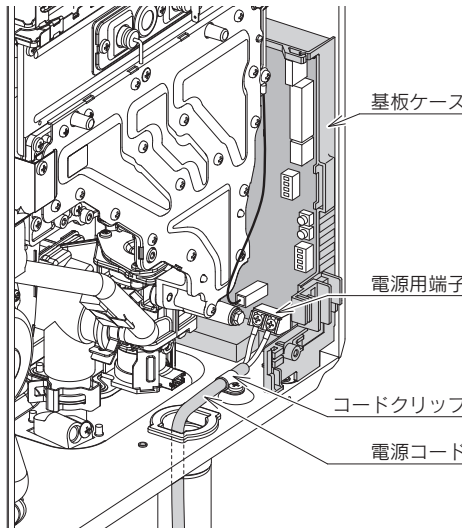


●パイプシャフト内の電源配線

- 1.機器の前パネルのねじ(4本)をはずし、前パネルを取りはずします。
- 2.基板ケースのねじ(1本)をはずし、基板ケースを手前に引き出します。



- 3.電源コードを固定しているコードクリップのねじを緩めてはずします。
- 4.制御基板の電源用端子から電源コードを取りはずします。
- 5.機器底面の電線管接続口から電源ケーブルを入れます。



パイプシャフト用 100V電源ケーブル

ビニルキャブタイヤケーブル(VCT・3心)

- 6.電源ケーブル(黒・白)を電源用として制御基板の電源用端子に、他の色をアース用として図のアース端子に接続します。
- 7.電源コードを固定していたコードクリップで電源ケーブルを固定します。
- 8.前パネルをはずしたねじ(4本)で機器に元通りに取り付けます。「リモコンの接続」または「湯温切換」を行う場合は、はずしたままにしておいてください。取り付けの前に「切換スイッチ1-4(ガス種切換)」・「切換スイッチ2-1、2-2(湯温切換)」の位置を配線図で確認してください。

電圧降下

- 電圧が降下すると故障や誤動作の原因になります。

漏電遮断器

- 電気設備に関する技術基準により、漏電したときに自動的に電路を遮断する装置(漏電遮断器)を電源側に設置してください。
- 動作時間0.5秒以下の性能を有する漏電遮断器を設置すると、D種接地工事の接地抵抗100Ω以下が500Ω以下に緩和されます。また定格感度電流15mA以下、動作時間0.1秒以下の電流動作型の漏電遮断器を設置すると接地工事が省略されます。(水気のある場所に設置する場合は除きます。)

接地(アース)

- アース工事を確実に行ってください。アースが不完全な場合は、感電するおそれがあります。
- 機器底面にアース端子があります。電気設備に関する技術基準に基づき、D種接地工事を行ってください。(接地抵抗100Ω以下)
- アース線はガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続しないでください。

埋設に適する場所

- 湿気が多い場所

埋設を避ける場所

- 地下埋設物のある場所(ガス管・水道管・地下ケーブル・引込管など)
- 避雷針や電話のアースから2m以内
- ガスや酸などで腐食するおそれがある場所
- 人通りの多い場所



ガス配管工事

⚠ 危険

- 誤ってガス接続口に給水配管を接続した場合は、そのまま配管を接続し直して機器を使用しないでください。ガス漏れ・爆発・火災の原因になります。

処置方法

誤って配管した場合は、ガス回路のすべての部品交換が必要です。

ガス接続に必要な資格について

- ガス接続工事(取付け・取りはずし)は、都市ガスとLPガスで必要な資格が異なります。

都市ガス用機器の場合

内管工事士・簡易内管施工士・ガス機器設置スペシャリスト・ガス可とう管接続工事監督者のいずれかの資格を有するかたが施工を行ってください。

LPガス用機器の場合

液化石油ガス設備士の資格を有するかたが施工を行ってください。 ※ガス機器設置スペシャリストは「燃焼器用ホース」の交換のみ施工することができます。なお、液化石油ガス設備工事を行う事業者は、事業所ごとに所在地を管轄する都道府県知事に「特定液化石油ガス設備工事事業開始届書」を提出する必要があります。

ガス栓

- 機器を設置する場所にガス栓がない場合、またはあっても位置や寸法などが適切でない場合には新設・移設・交換などが必要ですので、ガス供給事業者に相談してください。
- 機器のガス接続口の近くには必ず機器専用のガス栓を取り付けてください。

ガス配管

- ガス配管径はR1/2(15A)です。
- 機器とガス配管を接続する場合は必ずユニオン継手を使用してください。
- ねじ接続のガス配管接続工事については有資格者による工事が必要です。
- ガス配管の接続はガス供給事業者の指定する工事店で、指定の材料や基準に従って工事を行ってください。
- ガス配管はゴム管を使用しないでください。ガス漏れや火災の原因になります。

LPガス用容器

- LPガスを使用する場合は50kg型容器を2本以上併設してください。また機器からは2m以上離して設置してください。
- 長時間の連続使用・他のガス器具との同時使用・冬期のガス発生量が低下することを考慮して適切に増加してください。
- LPガス用調整器はガス消費量に合った家庭用や業務用の低圧調整器を使用し、工業用の中・高圧用は絶対に使用しないでください。

リモコンの接続

警告

- リモコンコードが熱交換器・バーナーなどの燃焼部・ヒータに接触しないように配線してください。
- 余ったリモコンコードは機器外でまとめ、機器内に入れないでください。また、リモコンコードを切断して使用するときは、樹脂スリーブ付のY形端子を使用してください。発煙・発火・故障の原因になります。

- この機器は別売の台所リモコン・増設リモコン・防水形増設リモコンが接続できます。
- 機器とリモコンの接続は小勢力回路の工事に該当し、電気工事士の資格がなくてもできますが、電気設備に関する技術基準に従って工事を行ってください。
- リモコンコードは分電盤の専用スイッチが「切」の状態、または電源プラグを抜いた状態で接続してください。
- 機器外ではリモコンコードを他の電気製品などの配線と離し、同一管内で配線しないでください。
- 太陽熱温水器と接続する場合は、音声リモコン(CMR-3301V)、ラクラクリモコン(CMR-2801)は高温でお湯はりされるおそれがあるため、接続できません。

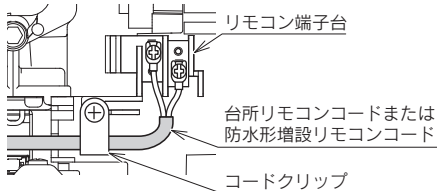
リモコンの取付け

リモコンの取付けはリモコン付属の「工事説明書」をご覧ください。

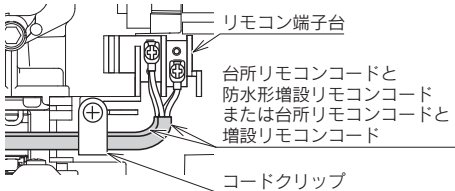
機器との接続

- 1.電源プラグをコンセントから抜きます。
分電盤に接続している場合は専用スイッチを「切」にします。
- 2.機器の前パネルのねじ(4本)をはずし、前パネルを取りはずします。
- 3.機器底面の電線管接続口からリモコンコードを入れます。
- 4.リモコンコードを基板ケースの2Pの端子台にそれぞれ接続します。
電動ドライバーは端子のねじ穴を破損するおそれがありますので使用しないでください。
リモコンコードは無極性ですので、＋はありません。
ドライバーなどが他の電子部品に接触しないように注意してください。
- 5.リモコンコードをコードクリップでしっかりと固定します。

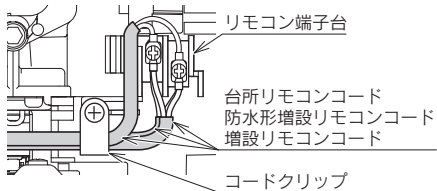
●台所リモコンのみ、防水形増設リモコンのみを接続する場合



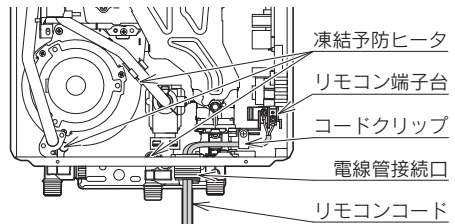
●台所リモコンと防水形増設リモコン、または台所リモコンと増設リモコンを接続する場合



●台所リモコン・防水形増設リモコン・増設リモコンを接続する場合



リモコンコードが凍結予防ヒータに接触しないように注意してください。
また、余ったリモコンコードは機器内部に入れないでください。
(GK-1650KO、GK-2050KOには凍結予防ヒータはありません。)



- 6.前パネルをはずしたねじ(4本)で機器に元通りに取り付けます。

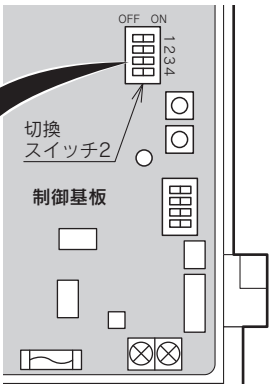
湯温切換

- お買い求め時にはお湯の温度が約60℃になるように設定されていますが、約42℃または約75℃が必要な場合は、制御基板の切換スイッチ2を下記の位置に合わせてください。
- 切換スイッチ2-1、2-2以外のスイッチは動かさないでください。
- 台所リモコンを取り付ける場合は切換スイッチ2はどの位置でもかまいません。
- 防水形増設リモコンのみ、または増設リモコンのみを取り付ける場合はリモコンの優先スイッチを押して「入」にするとリモコンの設定温度になり、「切」にすると切換スイッチ2の位置により約42℃、約60℃、約75℃になります。
- 切換スイッチ2の位置は配線図を参照してください。

- 1.制御基板上の切換スイッチ2を下記の位置に合わせてください。

	約42℃に 設定する場合	約60℃に 設定する場合	約75℃に 設定する場合
湯温切換 (切換スイッチ 2-1 2-2)	ON OFF	OFF	OFF ON
切換スイッチ2-1、2-2以外のスイッチは動かさないでください。※スイッチの位置はガス種などにより異なります。			

- 2.前パネルをはずしたねじ(4本)で機器に元通りに取り付けます。



設置工事後の点検・確認

- 設置工事が終わりましたら、もう一度確認してください。

機器およびその周辺

- 可燃物との距離および防火上の処置は充分ですか。
- 点検や修理など保守・管理上必要なスペースはありますか。
- 設置条件を満たしていますか。

電気配線

- 電源およびリモコンの配線は、指定された工事で行われていますか。
- リモコンコードの端子部のねじはよく締まっていますか。
- D種接地工事は行われていますか。

設置工事後の点検・確認

給水・出湯配管

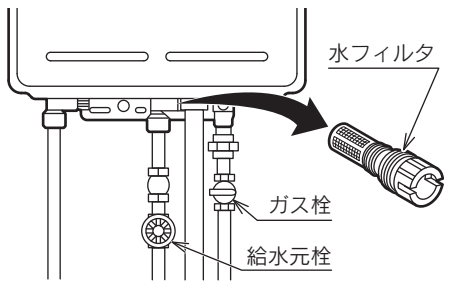
- 給水元栓を開けて、すべての給湯栓を開け水が出ることを確認した後、すべての給湯栓を閉め、しばらく放置して水漏れがないことを確認してください。このとき電源プラグはコンセントに差し込まないでください。(電源プラグが付いていない場合は、屋内のブレーカを「入」にしないでください。)

ガス配管

- ガス栓を開け、各接続部にガス漏れがないことを確認してください。

水フィルタの掃除

- 1.給水元栓を全開にします。
- 2.通水を充分行い、給水元栓を閉めた後、水フィルタにつまったゴミや切粉などを取り除いてください。(「取扱説明書」参照)



試 運 転

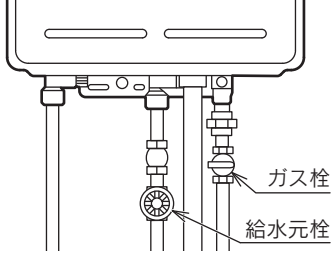
警告

- 機器内のお湯を排水するときは運転を停止し、機器が冷めてから排水してください。熱湯が排水されることがありますので、やけどに注意してください。

- 正しく設置されていることを確認した後、次の要領でお客様とご一緒に試運転を行ってください。

試運転の準備

- 1.給水元栓を開けます。
- 2.ガス栓を開けます。
- 3.屋内のブレーカを「入」にして電源プラグをコンセントに差し込みます。
(電源プラグが付いていない場合は、屋内のブレーカを「入」にしてください。)



試運転

- 1.リモコンの運転スイッチを「入」にし、「優先」を表示しているリモコンの給湯温度調節スイッチで希望の温度に調節します。(別売のリモコンを取り付けた場合)
- 2.給湯栓を開けます。
- 3.正常に運転することを確認します。
 - ・バーナーの点火・消火は確実ですか。
(機器本体や給湯栓の開閉で確認してください。
(別売のリモコンを取り付けた場合は燃焼表示で確認できます。))
 - 初めて点火する場合はガス配管内の空気が抜けるまで点火しません。
点火するまで操作を繰り返してください。
 - ・お湯の温度を調節できますか。(別売のリモコンを取り付けた場合)
お湯の温度が変化することを確認してください。
※正常に運転しない場合は取扱説明書を参照してください。
- 4.給湯栓を閉めます。
- 5.リモコンの運転スイッチを「切」にします。(別売のリモコンを取り付けた場合)

定量止水機能のお湯はり量の設定

〔GK-2450Kで別売の音声リモコン(CMR-3301V、YST-3301V)を接続した場合のみ〕

- 1.リモコン付属の取扱説明書に従って、お湯はり量の設定を行ってください。
- 2.お湯はり運転を行い、正常に作動することを確認してください。
 - ・お湯はり量は適切ですか。
 - ・お湯はり温度は調節できますか。
お湯の温度が変化することを確認してください。
 - ・お湯はり終了後、確実に止水しますか。
 - ・給湯栓を閉め、お湯はりスイッチを押して「切」にした後、再度給湯栓を開けるとお湯が出てきますか。
※正常に運転しない場合はリモコン付属の取扱説明書を参照してください。

試運転終了後の処置

- 試運転後、お客様がすぐに使用されない場合は必ず水を抜いてください。
機器や配管内に残った水をお客様が使用されるまで放置すると、凍結して機器が破損したり、熱交換器内の水が変質することがあります。

- 1.電源プラグをコンセントから抜きます。
(電源プラグが付いていない場合は、屋内のブレーカを「切」にしてください。)
- 2.ガス栓・給水元栓を閉めます。
- 3.給湯栓(シャワーなどを含む)をすべて開け、配管内の水を抜きます。
- 4.機器が冷めてから水フィルタと過圧逃し弁をはずして、機器内の水を抜きます。
※水フィルタ・過圧逃し弁はエアチャージ栓を兼ねています。
(水フィルタを変形させたり、水フィルタと過圧逃し弁のOリングに傷をつけたりしないように注意してください。)
- 5.水抜き終了後、水フィルタと過圧逃し弁はなくさないようにビニール袋などに入れて、お客様にお渡しください。

引 き 渡 し

お客様への説明

- 取扱説明書に従い、取扱方法をお客様に説明してください。
- 保証書に必ず必要事項をご記入の上、お客様にお渡しください。(保証書は取扱説明書の巻末です。)また、取扱説明書に従い「アフターサービス」について説明してください。
- この工事説明書は工事終了後、取扱説明書と共に必ずお客様にお渡しください。

所有者登録へのご協力をお願いします

- 所有者票の「販売店・販売会社記入欄」に記入し、お客様にお渡しください。
- 取扱説明書に従って所有者登録についてお客様に説明してください。
またお客様のご理解のもと、販売店・販売会社は所有者登録を代行することもできます。

住宅設備機器総合メーカー
株式会社 長府製作所

CHOFU

本社 〒752-8555 山口県下関市長府扇町2-1
TEL (083)248-1111
FAX (083)248-1906